

目的 昭和61年度から福岡市内の銀行，デパート，航空会社の女子社員の協力を得て，制服についてのアンケート調査を行い，1566名よりの協力を得た。これらの結果は、第33回九州支部研究発表会や，日本衣服学会昭和62年度研究発表会で報告した。今回は年齢との関係に重点をおき，検討した結果を報告する。

方法 調査時期：1886年3月，11月，1987年3月，調査対象者：銀行17行 353名，デパート3店1076名，航空会社3社 137名，計1566名，調査項目：制服の有無，賛否，制服に対する考え方，好ましい制服のデザイン，色の系統，組み合わせ，現在の制服のイメージ，他の一般の衣服に対する考え方等の10項目，方法：年齢を18～29才(A)，30才以上(B)に分類し，単純集計，クロス集計，因子分析を行った。

結果 「制服に対する考え方」では，シンボル性，高品質，実用性の項目でBの方がAより評価が高い。「現在の制服のイメージ」では各項目にわたってBの評価が高く，その差は明瞭に現れた。「他の一般の衣服に対する考え方」では経済性，伝統性の項目にBの評価が高い。「制服に対する考え方」の因子分析の結果，第1因子にAは実用性の項目，Bは流行，個性の項目が現れた。